

2023年度 自己点検・評価チェックシート

学部・研究科名：先進理工学部

※学部・研究科ごとに作成してください。

基準1 理念・目的 点検・評価項目①

大学の理念・目的を適切に踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 本学部は、伝統・定評ある本学理工系教育を継承しつつ、新しい時代に即した効果的な教育研究を推進する基礎と応用の融合を体系的に構築することを目指している。本学部の理念は、自然科学（物理学・化学・生命科学）を基礎とし、先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指した広範な理工学分野への展開にあり、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもとで常に世界最高水準の教育研究拠点として本学理工系の教育研究を先導することを目的としている。これらの目的理念は現在の学部教育への社会の要請にも合致し、適切に設定されている。（資料 1-①-1、1-①-2、1-①-3、1-①-4） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	1-①-1 早稲田大学学則 https://www.waseda.jp/top/about/work/regulations 1-①-2 早稲田大学先進理工学部要項（見返し、p. 1） 1-①-3 早稲田大学理工学術院ウェブサイト http://www.sci.waseda.ac.jp 1-①-4 早稲田大学先進理工学部ウェブサイト http://www.ase.sci.waseda.ac.jp

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
人材育成その他の教育研究上の目的（以下、「目的」）を設定している。	・評価基準1を満たしている。 ・目的を学則別表に記載している。	・評価基準2を満たしている。 ・目的を学部・研究科単位で設定している。 ・目的は高等教育機関としてふさわしく、学部・研究科の個性や特徴を示している。	・評価基準3を満たしている。 ・目的と大学の理念との関連性を考慮し、文中に明示している。	・評価基準4を満たしている。 ・目的を課程ごと、学位ごとに定めている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	目的を学位ごとに定めていることが確認できないため、4と判断した。

基準 1 理念・目的 点検・評価項目②

学部・研究科の目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 本学部の理念・目的は、学部要項に記載され、理工学術院ウェブサイト及び先進理工学部ウェブサイトにて公表されている。学部生に対しては、毎年度はじめのガイダンスにおいて周知が図られている。また、受験生には学部パンフレットを配付し公表している。さらにオープンキャンパス等の機会に理念・目的を紹介している。（資料 1-②-1、1-②-2、1-②-3） 【グッドプラクティス】 先進理工学部の理念・目的は、学部要項の見返しに記載されている。このため、学生や教員は学部要項・研究科要項を参照するたびに容易に閲覧でき、その内容の理解を深めている。 【課題】 特記事項なし	1-②-1 早稲田大学先進理工学部要項（見返し、p. 1） 1-②-2 早稲田大学先進理工学部ウェブサイト http://www.ase.sci.waseda.ac.jp 1-②-3 早稲田大学理工学術院パンフレット

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
目的を刊行物やウェブサイトなどいずれかの方法で公表している。	目的を刊行物、ウェブサイトを含めた複数の方法で公表している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・目的の公表にあたっては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに明示している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・目的を箇所内の教職員が定期的に確認する機会を設定している。	・評価基準 4 を満たしている。 ・目的を箇条書きにする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
5	

基準 2 内部質保証 点検・評価項目①

内部質保証のための方針及び手続を定めているか。

○下記の要件を備えた内部質保証のための方針及び手続の設定

- ・内部質保証に関する基本的な考え方
- ・内部質保証の推進に責任を負う組織の権限と役割
- ・教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針（PDCAサイクルの運用プロセスなど）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	【自己評価の理由】 大学総合研究センターの支援のもと、自己点検評価委員会が内部質保証、点検・評価を進める（資料 2-①-1、2-①-2）。学部として内部質保証の方針および手続きをまだ設定していないが、質保証に寄与する仕掛けは個別に導入されてきた。全学科に共通する基礎実習科目では専門教員・職員等がサポートしているため一貫した学習効果の高い実習が実践できている。各学科・学年でクラス担任を中心として成績不振者へのサポートを行っている。また、各学科において卒業論文の審査結果を審議する判定会議および学部運営委員会が内部質保証として機能している（2-①-3）。 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 これまでの実績を踏まえながら、学部として内部質保証の方針および手続きを策定する。	2-①-1 早稲田大学大学総合研究センター規則 2-①-2 大学点検・評価委員会規程 2-①-3 早稲田大学先進理工学部要項（学科別案内 p.36-58）

【評価基準】

[1]	2	3	4	5
・内部質保証のための方針および手続きを設定している。 ・内部質保証推進組織をはじめとする内部質保証に関する体制が整備され、各組織の権限・役割が内規等で定められている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・内部質保証体制の各組織が十分に機能するよう、それぞれの役割が定義されている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・内部質保証体制の各組織が十分な連携が図れるよう、それぞれの役割が定義されている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・内部質保証体制を図示化するなど、PDCA の一連のサイクルが明確にされている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・内部質保証のための方針や手続きについて、所属の教職員に定期的に共有する機会を設けている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 2 内部質保証 点検・評価項目③

方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

- 方針及び手続に従った内部質保証活動の実施
- 学部・研究科における点検・評価の定期的な実施
- 学部・研究科における点検・評価結果に基づく改善・向上の計画的な実施
- 行政機関、認証評価機関等からの指摘事項（設置 計画履行状況等調査等）に対する適切な対応
- 点検・評価における客観性、妥当性の確保

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	【自己評価の理由】 学部として内部質保証システムは設けていないが、各学科・学年のカリキュラムに応じて成績不振者に対するきめ細かな対応を行っている。その結果は、不振学生の学習意欲の継続、科目登録の改善、単位取得の向上に役立っている。きめ細かな研究指導が行き届いているため、学部学生でも高度な研究経験を身に着けている。クラス担任制によりきめ細かな進路指導もあり、高い大学院進学率と好調な就職状況という成果が出ている。（資料 2-②-1、2-②-2） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 学部として内部質保証システムを整備する。	2-②-1 早稲田大学先進理工学部要項（学科別案内 p.36-58） 2-②-2 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/about/career/

【評価基準】

[1]	2	3	4	5
・内部質保証の取組が方針と手続きに従って行われている。 ・点検・評価結果に基づいて、内部質保証推進組織による改善のための検討が行われている。 ・文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・点検・評価および点検・評価の結果に基づく改善を定期的に行う仕組みを構築している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・内部質保証推進組織による改善のための検討が行われ、その結果が箇所内に共有されている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・点検・評価結果に基づく改善を行っている。 ・内部質保証のプロセスの客観性・妥当性を確保するための取組を行っている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・内部質保証システムに関する自己点検・評価の結果に基づいた取り組みの結果、改善が見られる。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目①

授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定（授与する学位ごと）及び公表

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 学位授与方針は各学科において授与する学位ごとにディプロマポリシーとして定められており、理工学術院のウェブサイトで分かり易い形で公開されている。（資料 4-①-1） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	4-①-1 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
- 学位授与方針を課程ごとと学位ごとに設定している。 - 学位授与方針をウェブサイトや要項等で公表している。	- 評価基準 1 を満たしている。 - 学位授与方針は、知識、技能、態度などの要素を含んだものとなっている。	- 評価基準 2 を満たしている。 - 学位授与方針は全学の学位授与方針と関連性を有している。	- 評価基準 3 を満たしている。 - 学位授与方針に卒業要件、修了要件が明示されている。	- 評価基準 4 を満たしている。 - 箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	複数の学科の DP において、卒業要件を記載していないため、3 と判断した。

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目②

授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

- 下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定（授与する学位ごと）及び公表
 - 教育課程の体系、教育内容
 - 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等
- 教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価の理由】 各学科は学位授与方針に基づいてカリキュラムポリシーを策定し、授与する学位ごとに当該学位に相応しい学修成果を設定している。これらは、理工学術院のウェブサイトにおいて分かり易い形で公表されている。（資料 4-②-1） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	4-②-1 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/

【評価基準】

1	2	3	[4]	5
・教育課程の編成・実施方針を課程ごと、学位ごとに設定している。 ・教育課程の編成・実施方針をウェブサイトや要項等で公表している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針は、編成に関する考え方、実施に関する基本的な考え方を含んでいる。 ・学位授与方針との連関性を確認することができる。	・評価基準 2 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針に教育課程の体系、教育内容、構成する授業科目区分、授業形態等を記載している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。	

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	

教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

- 各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置
 - ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性
 - ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮
 - ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定
 - ・個々の授業科目の内容及び方法
 - ・授業科目の位置づけ（必修、選択等）
 - ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定
 - ・初年次教育、高大接続への配慮（【学士】）
 - ・教養教育と専門教育の適切な配置（【学士】）
 - ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】）
 - ・理論教育と実務教育の適切な配置等（【院専】）
 - ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織 等の関わり
- 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 本学部では、カリキュラムポリシーに立脚した教育目標の達成に向けた適切な授業形態（講義・演習・実験等）を採用している。全学科で1年次に理工学基礎実験1（必修）を履修し、2年次または3年次に理工学基礎実験2（必修）を履修する。また、各学科においてそれぞれのカリキュラムポリシーに合わせて2年次以降に専門実験・演習が配置され、より専門的な知識とスキルを身に付ける実験教育を受ける機会を提供している。学位授与基準は、各学科において定めた科目区分の卒業要件の科目履修・単位数から成っており、公表されている。これらの基準に基づいて学部運営委員会において審議・判定している。（資料4-③-1、4-③-2） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	4-③-1 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/ 4-③-2 早稲田大学先進理工学部要項（学科別案内 p.36-58）

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
教育課程の編成・実施方針と授業科目・教育課程の関連性を確認できる。	・評価基準1を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針に記載されている内容の科目が設置されている。 ・科目区分と設定されている授業時間数、単位数が適切である。	・評価基準2を満たしている。 ・学修成果の獲得という観点から必修科目や専門科目が適切に設置されている。 【学部】 ・初年次教育に配慮した科目や教養科目、共通科目等が適切に配置されている。 【研究科】 ・リサーチワークとコースワークが適切に組み合わされている	・評価基準3を満たしている。 ・学修成果の獲得という観点を踏まえて順次性や体系性に配慮した教育課程が編成されている。	・評価基準4を満たしている。 ・社会的および職業的自立を図るための教育を行っている。

		・ 1 年次に研究倫理教育を受講することを要項等に記載している。 【専門職】 ・ 理論教育と実務教育のバランスに配慮している。		
--	--	--	--	--

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	教育課程の編成・実施方針と科目の関連性が、根拠資料では読み取れないため、1 と判断した。

学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

- 各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置
- ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等）
- ・シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、事前事後の学修の指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）
- ・授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知
- ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法（教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）
- ・学習の進捗と学生の理解度の確認
- ・授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導
- ・授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示
- ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数（【学士】）
- ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施（【修士】【博士】）
- ・実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施（【院専】）
- ・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価の理由】 全学科で卒業研究を必修科目とし、年間履修登録上限単位数は 49 単位としている。シラバスは理工学術院ウェブサイトに掲載され、学生が容易に閲覧できるようになっている。毎年度更新されるシラバスには、「授業の到達目標」、「授業計画」、「成績評価方法」などが明示され、授業はこのシラバスに基づいて実施されている。公開されたシラバスから学生は学習のポイント・評価の情報を得ることができ、学習効率が高まっている。（資料 4-④-1、4-④-2） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 対話型、問題発見・解決型授業の割合が 75%を越える状況が、学部教育方針に合致するか自明ではない。継続的に検討する必要がある。	4-④-1 早稲田大学先進理工学部要項（p.9～p.13） 4-④-2 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/students/syllabus/

【評価基準】

1	2	3	[4]	5
・教育課程の編成・実施方針と教育方法の連関性が確保されている。 ・授業内容・形態に配慮したクラス規模を設定している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・年間の登録単位数が 50 単位を超過している学生について申し合わせに定める区分に応じて対応している。 ・シラバスチェックリストを活用し、記載項目に漏れがないか組織的に確認を行っている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・授業外における学習に対する指導体制を構築している。 【研究科】 ・研究指導計画を学生に明示している。 【専門職】 ・実務的能力育成のための教育上の工夫を行っている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・各科目の到達目標と DP で定める学修成果などポリシーとシラバス記載内容の整合性が確保されている。 ・学修成果の獲得という観点から、適切な授業方法、形態が採用され、実施されている。 【研究科】 ・研究指導計画に基づき	・評価基準 4 を満たしている。 ・学位プログラムとしての順次性・体系的に配慮した科目の配置が行われている。 【学部】 ・対話型、問題発見・解決型授業の割合が 75%を超過している。 【研究科】 ・研究指導計画について定期的に見直しを行う

			研究指導を実施している。	ている。
--	--	--	--------------	------

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	「授業外の指導体制」が構築されていることが根拠資料で読み取れないため、2 と判断した。

成績評価、単位認定を適切に行っているか。

○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置

- ・単位制度の趣旨に基づく単位認定
- ・既修得単位等の適切な認定
- ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	【自己評価の理由】 成績表記は A+・A・B・C・F をもって表示している。単位認定と成績評価は学部要項に明示し、シラバスに記載した各科目の評価方法と評価基準にそって成績評価を行い、A+～C を合格とし、合格者に所定の単位を認定している。各学期に授業評価アンケートを実施し、結果に対して担当教員が改善に向けた対応をとっている。また、各学科にて定期的に学部生の成績リストを分析し、教育効果について協議を行い、カリキュラムやシラバス、担当教員の見直しを行っている。（資料 4-⑤-1、4-⑤-2） 【グッドプラクティス】 各学科内でカリキュラムに関しては、常に点検しフィードバックを行いながら専門教育を進めている。また、英語カリキュラムの充実により専門科目においても英語化が進んでいるケースが認められる。 【課題】 シラバスの記載内容や成績評価基準、Moodle の活用に関して科目ごと、教員ごとに温度差があるので、多くの教員が集まる会議において、機会を捉えて事例紹介をする。	4-⑤-1 早稲田大学先進理工学部要項（p.83） 4-⑤-2 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/students/syllabus/

【評価基準】

1	2	[3]	4	5
・事前事後の学修を含めた単位制度の趣旨について教員・学生への周知・徹底を行っている。 ・既修得単位の認定について箇所内で明確なルールを定めている。 【学部】 ・「学部教育における成績評価基準に係わる申し合わせについて」に基づいた運用を行っていない。 【研究科】 ・成績評価基準を定めていない。	・評価基準 1 を満たしている。 ・既修得単位の認定に関するルールについて、要項等で学生に周知している。 ・成績評価基準に基づいた運用を行っている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の可視化に関連する科目については絶対評価を用いるなど科目の性質に応じた柔軟な運用を行っている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・成績評価を行うにあたって、ルーブリックを使用するなど、客観性を確保するための取り組みを行っている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・各科目における成績分布を箇所内で共有し、適切な成績評価が行われているか確認する仕組みを構築している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	成績評価基準に基づいた運用を行っていることなどが根拠資料から読み取れないため、1 と判断した。

学位授与を適切に行っているか。

○学位授与を適切に行うための措置

- ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表
- ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置
- ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示
- ・適切な学位授与

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 学位授与基準は、各学科・専攻において定めた科目履修と卒業要件単位数で決まっており、これらの基準に基づいて学部運営委員会において審議・判定している。学位審査基準と手続は学部要項・研究科要項、理工学術院ウェブサイトで明示されている。（資料 4-⑤-3、4-⑤-4） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	4-⑤-3 早稲田大学先進理工学部要項（学科別案内 p.36-58） 4-⑤-4 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/students/dissertation/

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
・卒業・修了の要件を定めている。 ・卒業・修了の要件を刊行物、ウェブサイト等で公表している。 ・既修得単位数について上限を超えて認定されないような仕組みを設定している。 【研究科】 ・研究指導の方法やスケジュールを定めている。 ・学位論文等の審査基準を公表している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・学位授与の責任体制・手続きについて定めている。 ・既修得単位の認定について箇所内での基準・手続き方法を定め、要項等で周知している。 【研究科】 ・研究指導の方法やスケジュールを学生にあらかじめ明示している。 ・学位論文の審査基準を学生に文書等であらかじめ明示している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・学位授与の責任体制・手続きを要項等で明示している。	・評価基準 3 を満たしている。 【学部】 ・卒業論文等について複数の教員で審査するなど組織的な審査体制を構築している。 【研究科】 ・副指導教員を置くなど研究指導体制の充実を図っている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・学位授与の認定にあたってルーブリック評価を行うなど、客観性、透明性の確保のための工夫を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	学位授与の責任体制・手続きを要項で明示していることが確認できないため、1 と判断した。

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑥

学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定

○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
1	【自己評価の理由】 アセスメントポリシーを策定している段階であり、設定後はアセスメントポリシーを公開し運用する予定である。（資料 4-⑥-1） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 アセスメントポリシーの設定、運用開始。	4-⑥-1 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/

【評価基準】

[1]	2	3	4	5
学修成果の指標および可視化の方法を検討している。	- 評価基準 1 を満たしている。 - 学修成果の指標および可視化の方法を定めている。 - 学位授与方針で示した学修成果と可視化の方法の関連性が明確である。 - 可視化の方法が多角的かつ適切な方法となっている。	- 評価基準 2 を満たしている。 - 学修成果の指標および可視化の方法が専門分野の性質に応じた適切なものとなっている。	- 評価基準 3 を満たしている。 - 間接評価と直接評価を組み合わせ可視化を行っている。	- 評価基準 4 を満たしている。 - 直接評価と間接評価の相関分析などによりデータの妥当性を検証している。 - 経年比較などを行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑦

教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

・学習成果の測定結果の適切な活用

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	【自己評価の理由】 アセスメントポリシーの設定・運用開始後に、自己点検評価委員会を中心として毎年度、学修成果の点検・評価を行う。（資料 4-⑦-1） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 アセスメントポリシーに基づいて、これまでよりも頻度を高めて定期的点検評価を行う。	4-⑦-1 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/

【評価基準】

1	[2]	3	4	5
・教育課程の内容、方法等の自己点検・評価の体制・方法等について検討を行っている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の内容、方法等の自己点検・評価の体制・方法等について内規等で定めている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の可視化を定期的に行い、その評価結果を教育課程の検討を担う組織にフィードバックしている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・点検・評価結果を踏まえ、教育課程の改善・向上に向けた検討に着手している。	・評価基準 4 を満たしている。 ・点検・評価結果を踏まえた教育課程の改善・向上の実績がある。また、定期的に改善・向上を検討するサイクルが確立している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	自己点検・評価の体制や方法を内規等で設定していることが根拠資料から読み取れないため、1 と判断した。

基準 5 学生の受け入れ 点検・評価項目①

学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 早稲田大学の教育理念と理工学術院の人材育成方針に基づき、先進理工学部としての明確なアドミッション・ポリシーを定めている。その内容は、入学から卒業までのカリキュラムや進路の方向性を示すディプロマ・ポリシーと共に理工学術院ウェブサイト、先進理工学部ウェブサイト、パンフレット等に記載し、当学部における学生受け入れとその後の人材育成方針を明示している。（資料 5-①-1、5-①-2、5-①-3、5-①-4、5-①-5） 【グッドプラクティス】 学部のアドミッションポリシーをウェブサイトや学部案内に明示し、さらにオープンキャンパスや学部説明会において受験生に周知することにより、学部の教育理念を理解した適切な学生が入学している。 【課題】 特記事項なし	5-①-1 2023 年度入試要項 5-①-2 早稲田大学入学センター https://www.waseda.jp/inst/admission/undergraduate/result/ 5-①-3 早稲田大学入学案内 https://www.waseda.jp/nyusi/ebro/ug/admissions_jp_2023/ 5-①-4 早稲田大学理工学術院パンフレット 2023 5-①-5 早稲田大学理工学術院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
・課程ごとに学生の受け入れ方針を設定している。 ・学生の受け入れ方針を刊行物やウェブで公表している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針に、求める学生像を明示している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・学位ごとに学生の受け入れ方針を定めている。 ・他のポリシーとの一貫性が確保できている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針に、入学前の学習歴、学力水準、能力、判定方法についても明示している。	・評価基準 4 を満たしている。 ・箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
5	

基準 5 学生の受け入れ 点検・評価項目②

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定

○授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供

○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備

○公正な入学者選抜の実施

・オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施

○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

・オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 一般入試において厳正なる選抜を行うと共に、外国人留学生を含め、様々な教育的背景を持つ志願者に公平な機会を与え、学部 of 受け入れ方針に沿う能力や勉学志向を持つ入学者を選抜するため、推薦入試、外国学生入試、特別選抜入試等の入試制度を導入している。いずれの入試においても、学科、学部、学院の各会議体にて審査の上、可否を決定しており、学院執行部を中心に公正な選抜を実施する仕組みを整えている。（資料 5-②-1、5-②-2、5-②-3、5-②-4、5-②-5） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	5-②-1 2023 年度入試要項 5-②-2 早稲田大学入学センター https://www.waseda.jp/inst/admission/undergraduate/result/ 5-②-3 早稲田大学入学案内 2023 https://www.waseda.jp/nyusi/ebro/ug/admissions_jp_2023/ 5-②-4 早稲田大学理工学院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/admissions_us/ 5-②-5 早稲田大学理工学院ウェブサイト内 https://www.waseda.jp/fsci/about/departments/advanced/

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
・学生の受け入れ方針と選抜制度に関連性が確保されている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針を具現化するための運営体制を整備している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・整備された運営体制のもと入学者の選抜が公正に実施されている。 ・費用や経済的支援に関する情報提供を行っている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・方針に沿った学生を受け入れていることをデータにより確認している。	・評価基準 4 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針を具現化するための運営体制の見直しを行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	方針に沿った学生の受け入れができているかデータで確認しているところは根拠資料にて読み取れないため、3 と判断した。

基準 5 学生の受け入れ 点検・評価項目③

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

- ・入学定員に対する入学者数比率（【学士】）
- ・編入学定員に対する編入学生数比率（【学士】）
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
4	【自己評価の理由】 先進理工学部では、学則定員（540 名）に基づき、各入試制度において入学定員を設けている。全入学者数の定員比率が、1.0～1.05 におさまることを目指しているが、直近 5 年はすべて基準を満たしている。その結果、在籍学生比率も適正である。（資料 5-③-1、5-③-2） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	5-③-1 2023 年度入試要項 5-③-2 早稲田大学入学センター https://www.waseda.jp/inst/admission/undergraduate/result/

【評価基準】

1	2	3	[4]	5
・収容定員に対する在籍学生数比率の管理を行っている。 【学部】 ・入学定員充足率の 5 年平均もしくは収容定員充足率が、是正勧告に該当する基準（注 1）をクリアしている。	・評価基準 1 を満たしている。 【学部・研究科】 ・入学定員充足率の 5 年平均もしくは収容定員充足率が、改善課題に該当する基準（注 2）をクリアしている。	・評価基準 2 を満たしている。 【学部・研究科】 ・収容定員と在籍学生数に齟齬が生じた場合の対応方法やフローを確立している	・評価基準 3 を満たしている。 ・3 つのポリシーなどに基づいて、あるべき収容定員数について意見交換を行う機会を設定している。	

注 1～注 2：大学基準協会「[評価にかかる各種指針](#)」参照

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	収容定員と在籍学生数に齟齬が生じた場合の対応方法やフローについて読み取れないため 2 と判断した。

基準5 学生の受け入れ 点検・評価項目④

学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 先進理工学部では、年に一度、各種入試について実施方法や実施時期、実施体制などを検証し、見直す機会を設けている。また、各学科の代表者で構成された入試教育ワーキングを開催し、入学者の成績や進路などの客観的なデータに基づき、各種入試の在り方、意義について再確認し、受け入れ方針に沿った人材が入学しているかどうかの検証を綿密に行っている。 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
・学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスについて検討している。	・評価基準1を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスを内規等で定めている。	・評価基準2を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価を定期的に実施している。	・評価基準3を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき、改善に取り組んでいる。	・評価基準4を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき、定期的な改善実績がある。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき改善に取り組んでいることが読み取れないため1と判断した。

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目①

大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

○求める教員像の設定

- ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等

○各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 本学部が教員に求める能力と資質等は、本学部の教育理念である「自然科学（物理学・化学・生命科学）を基礎とし、先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指した広範な理工学分野への展開を目的とし、新たな学問領域を開拓する進取の精神のもと、常に世界最高水準の教育研究拠点として理工系教育研究を先導すること」を実現するものである。各学科の教員組織の編成方針は、各学科の教室会議において協議され、研究業績や教育実績等を重んじて決定している。（資料 6-①-1、6-①-2、6-①-3、6-①-4） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	6-①-1 早稲田大学学則 https://www.waseda.jp/top/about/work/regulations 6-①-2 早稲田大学先進理工学部要項（見返し、p. 1～p. 8） 6-①-3 早稲田大学理工学術院ウェブサイト http://www.sci.waseda.ac.jp 6-①-4 早稲田大学先進理工学部ウェブサイト http://www.ase.sci.waseda.ac.jp

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を定めている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針において求める教員像を提示している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を箇所内で適切に共有している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・教員組織の編制に関する方針について定期的に点検・評価を行う体制となっている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・教員組織の編制に関する方針についての点検・評価の結果に基づき、定期的な改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	教員組織の編制に関する方針について、根拠資料からは読み取れないため 1 と判断した。

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

○学部・研究科等ごとの専任教員数

○適切な教員組織編制のための措置

- ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性
- ・各学位課程の目的に即した教員配置
- ・国際性、男女比
- ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成への配慮
- ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授又は准教授）の適正な配置
- ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置
- ・教員の授業担当負担への適切な配慮

○教養教育の運営体制

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 本学部の教育の理念・目的を実現するために相応しい教育組織については、学部運営委員会と各学科の教室会議で協議され、その結論に基づいて整備されている。専任教員数、教員組織編制、教養教育の運営体制を見直す議論も行われている。（資料 6-②-1、6-②-2、6-②-3、6-②-4） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	6-②-1 早稲田大学学則 https://www.waseda.jp/top/about/work/regulations 6-②-2 早稲田大学先進理工学部要項（見返し、p.1～p.8） 6-②-3 早稲田大学理工学術院ウェブサイト http://www.sci.waseda.ac.jp 6-②-4 早稲田大学先進理工学部ウェブサイト http://www.ase.sci.waseda.ac.jp

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
・専任教員数または教授数が設置基準を満たしている。 【専門職】 ・実務家教員が適切に配置されている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教員組織の編制方針に則った採用活動を行っている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編成に関する方針に基づく適切な教員編成となっている。（課程の目的、主要な授業科目への専任教員の配置、研究科担当教員の資格の明確化）	・評価基準 3 を満たしている。 ・国際性、男女比、年齢構成、各教員の授業負担のバランスの観点において適切に教員を配置している。	・評価基準 4 を満たしている。 【学部】 ・教養科目や共通科目等の運営についての体制を構築している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	適切に教員を配置していることが確認できなかったため、2 と判断した。

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目③

教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

○教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備

○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 教員の募集・採用・昇格については、各学科の教室会議において協議され、学部運営委員会と教授会の承認によって決定され、自己点検評価を通して適切に運営されている。（資料 6-③-1、6-③-2、6-③-3、6-③-4） 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	6-③-1 早稲田大学学則 https://www.waseda.jp/top/about/work/regulations 6-③-2 早稲田大学先進理工学部要項（見返し、p. 1～p. 8） 6-③-3 早稲田大学理工学術院ウェブサイト http://www.sci.waseda.ac.jp 6-③-4 早稲田大学先進理工学部ウェブサイト http://www.ase.sci.waseda.ac.jp

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
・募集、採用、昇任等に関する基準や手続きを定めている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・募集、採用、昇任等に関する基準や手続きを定め、規定化することにより箇所内で共有している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・規定に基づき、募集、採用、昇任等の実施が行われている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・規定や運用について定期的に自己点検・評価を行う体制となっている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・点検・評価の結果を踏まえて定期的な改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	基準や手続きについて教室会議で協議されていることが記載されているが、根拠資料より読み取れないため、1 と判断した。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

○ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施

○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 本学部に自己点検評価委員会を設け、FD 活動の適切な実施を図っている。FD 活動のテーマを年度初めに設定し、実施した FD 活動の報告は年度末に行われている。授業評価アンケートを実施しており、アンケート結果にもとづく対応策を各学科・専攻で協議している。（資料 6-④-1、6-④-2、6-④-3） 【グッドプラクティス】 入試教育ワーキングと自己点検評価委員会において、カリキュラム改善・シラバス改善・成績評価基準の見直しや、授業アンケートなどによる学生の理解度の把握・学生とのコミュニケーションの促進などに取り組んでいる。教員の資質の向上を図るための方策として、特に研究においては、早稲田大学 WEB ページにおける研究業績の公開、研究者データベースの充実を奨励し、広く社会に教員各自の研究業績や研究成果に関して、オープンに情報を公開している。 【課題】 特記事項なし	6-④-1 早稲田大学 大学総合研究センターウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/ches/ctl/faculty/fd/ 6-④-2 早稲田大学理工学術院ウェブサイト http://www.sci.waseda.ac.jp 6-④-3 早稲田大学先進理工学部ウェブサイト http://www.ase.sci.waseda.ac.jp

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
・学部・研究科単位で FD 活動を行っている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・課程ごとに教育改善にかかる FD が組織的に実施されている。 ・教育に加えて研究や社会貢献活動にかかる資質向上を目的とした FD が実施されている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・エビデンスにより明らかになった課題の改善を目的とした FD プログラムを実施している。 ・恒常的に専任教員の 3/4 以上が FD プログラムに参加している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・FD 活動によって教育活動等の改善を行っている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・自己点検・評価の結果、FD 活動の改善に取り組んでいる。 ・専任教員全員が恒常的に FD プログラムに参加している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	FD プログラムへの参加者数が根拠資料より読み取れないため、2 と判断した。

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目⑤

教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	【自己評価の理由】 「今後の教育、教員制度および教員採用に関する方針」に従い、外国人教員、女性教員の雇用促進、年齢構成や専門性への配慮、英語での授業実施、国際発信力などの観点を重視して教員組織を編成することとしている。（資料 6-⑤-1、6-⑤-2）。 【グッドプラクティス】 特記事項なし 【課題】 特記事項なし	6-⑤-1 理工学術院将来構想 https://www.waseda.jp/fsci/about/future/#anc_3 6-⑤-2 Waseda Vision 150 数値目標 https://www.waseda.jp/inst/vision150/about/target

【評価基準】

1	2	3	4	[5]
・教員組織に関する自己点検・評価に対する基準、体制、方法、プロセス等を検討している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価に対する基準、体制、方法、プロセス等を内規等で定めている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価を実施している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいる。	・評価基準 4 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価を踏まえ定期的に改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	教員組織の自己点検・評価について、将来構想の策定で行われていることが推測されたが、根拠資料より読み取れないため、2 と判断した。

<3つのポリシー、学修成果、アセスメント・ポリシー、カリキュラム、入試制度の変更>

※2022 年 10 月以降に変更を決定した項目があれば記載してください。

項目	変更時期	変更内容	変更理由・変更の根拠
アドミッショ ン・ポリシー (3学部共 通)	2023 年 7 月	「帰国生・」を削除	帰国生入試の廃止
3つのポリシ ー	2023 年度	化学・生命化学科のディプロマ・ポリシーを修正した	誤記訂正。詳細は別紙のとおり。

※各学部・研究科の3つのポリシーを変更する場合の手順：

1. 各学部・研究科での意思決定
2. 教務部に変更する旨を連絡
3. 教務部が共有する報告方法等に基づき報告（資料提出）
4. 大学・点検評価委員会および学術院長会における確認
5. 各学部・研究科のウェブサイト等で公表

変更点：太字・下線

・ディプロマ・ポリシー

変更前	変更後
現代化学は原子、分子の立場から物質のもつ本質を解明しようとするものであり、自然科学の中心に位置づけられている。そのため、化学・生命化学科では、原子、分子、電子の視点をもって、無機・分析化学、有機化学、物理化学、生命化学分野の基礎知識と実験法を習得し、“考え、実験する化学”（研究課題を見出して解決すること）を実践する能力を育成し、自然科学の本質を探究する知識・能力を有し、倫理観を備えた卓越した人材の育成を行う。このような学修目標に到達した学生に、学士（理学）授与する。	現代化学は原子、分子の立場から物質のもつ本質を解明しようとするものであり、自然科学の中心に位置づけられている。そのため、化学・生命化学科では、原子、分子、電子の視点をもって、無機・分析化学、有機化学、物理化学、生命化学分野の基礎知識と実験法を習得し、“考え、実験する化学”（研究課題を見出して解決すること）を実践する能力を育成し、自然科学の本質を探究する知識・能力を有し、倫理観を備えた卓越した人材の育成を行う。このような学修目標に到達した学生に、学士（理学） <u>の学位</u> を授与する。